

アウトやセーフのジェスチャーを行う際の表現方法について、以下のようなジェスチャーを行うことも可能ですので、審判技術の向上を目指して実践してください。

① アウトのタイミングにも関わらず、野手が落球したため、セーフとなった場合

- (1) 「セーフ」のジェスチャーおよび宣告をする。
- (2) 左足を一步前に出し、右手の人差し指で自分の真下の地面を指さすジェスチャーを行い「ドロップ・ザ・ボール」(“Dropped the ball !”)を宣告する。

② アウトのタイミングにも関わらず、野手が完全捕球できず、ボールをジャググル（お手玉した）場合

- (1) 「セーフ」のジェスチャーおよび宣告をする。
- (2) 左足を一步前に出し、両方の手の平を上にして指を握ったり広げたりしながら、腕を上
下させる
ジェスチャーを行い「ジャググル・ザ・ボール」(“Juggled the ball !”)を宣告する。

③ フォースアウトになる場面で、野手の捕球は確認できたものの、触塁の有無が判然としにくい場合

- (1) 触塁の確認ができた場合は、左手でベースを指さすジェスチャーを行い「オン・ザ・ベース」(“On the base !”)または「オン・ザ・バッグ」(“On the bag”)を宣告する。
- (2) 「アウト」のジェスチャーおよび宣告をする。

④ フォースアウトや飛球を捕球し、プレイを継続して送球する際、投げ手にボールが移った後に落球した場合

- (1) 「アウト」のジェスチャーおよび宣告をする。
- (2) 右手を握り、左手の手の平で包んで数回引くようなジェスチャーを行い「プーリング・イット・アウト」(“Pulling it out !”)を宣告する。

⑤ ラインアウトを宣告する場合

- (1) 走者に向かって「アウト」のジェスチャーおよび宣告をする。
- (2) 「オフ・ザ・バッグ」のジェスチャーのように両腕を振って、「アウト・オブ・ザ・ベースパス」(“Out of the base path !”)または「アウト・オブ・ザ・ベースライン」(“Out of the base line !”)を宣告する。

このように、走者がベースパスから離れたことを選手、観衆に分かりやすくする方法もあります。